

(その三)

工場又は 事業場の名称	日立メディコ 柏事業場
----------------	-------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
19	29	99	34						

その他対策（19、29、39、49、59、99）を記載した場合は、対策の内を次の欄に具体的に記載すること。

11, 12, 21, 22, 23, 31, 32, 33, 34, 92は実施済み。
54, 94は一部適用済み。
19：部品清掃作業用アルコール類の代替品化（非VOC）を調査・検討中
29：使用部署毎に使用管理の強化（木目細かい管理）
99：塗装レス化の推進（SUS、亜鉛めっき鋼板、プレコート鋼板への切替え）
※新製品の塗料を変更した際、塗装回数が1回増えたため（下塗り⇒上塗り、から下塗り⇒中塗り⇒上塗り）、再度塗料の検討を行い、従来と同じ回数 of 塗料を採用することとした。

(その四)

工場又は事業場の名称	日立メディコ 柏事業場
------------	-------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成19年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	計画年度の目標を達成できた。	削減目標を達成できた。	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。
B	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)
C	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	目標年度の目標達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

課題：生産量に比例して塗料・シンナーの使用量が増減するので、削減量の把握が困難。
対策：生産量にリンクした使用量となっているか、使用部署毎の使用量管理を行う。
非VOC系塗料への転換も検討課題に挙がるが、①経済的事情：例・水溶性塗料への転換は塗装設備の入れ替え必要で設備投資金額大。②技術的課題：塗装品質の維持(塗装皮膜厚、など)が困難、等により、実現が難しい。
また、開放状況下での作業が多いため、VOC回収も困難(使用職場も多く、局排設備も点在するため、除外設備の導入・ランニングコストの負担大)。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価がCの場合は、必ず記載すること。